



榎本雅夫 議員

介護保険事業・高齢者福祉支援は

質問

介護予防事業は、要支援、要介護に陥るリスクの高い高齢者を対象にした二次予防事業と、自立支援の一次予防事業があるが、本市の取り組みと成果は。

福祉部長

一次予防事業は、愛西おでかけサロンと、はつらつ体操を行っている。サロンは、平成24年度3千264人と前年より増加している。体操クラブは、3会場で千953人の参加がある。

二次予防事業は、65歳以上

質問

24時間定期巡回・随時対応サービスの市の取り組みは。

福祉部長

人口規模、人口密集状況などから、ばらばらのニーズしかない。第5期事業計画の中では、市民ニーズを把握していく検討段階である。

質問

介護認定までの時間が遅いのではないかと声を聞くが、介護認定の現状は。

福祉部長

認定申請は、23年度は2千759件、昨年は2千814件で年々多くなっている。本年度から一度に行う審査の上限を25件から35件に引き上げていく。認定の結果がでるまで30日ほどをめぐりに申請の事務を進めている。

質問

認知症の場合、周りから介護をしていることがわかりづらく、誤解や偏見をもたれることがあるので、周囲に知ってもらうため、介護マークを配布してはどうか。

福祉部長

県から介護マークが届くので、高齢福祉課や、各総合支所などで周知していく。

雑誌スポンサー制度の取り組みを

質問

雑誌スポンサー制度とは、図書館にある雑誌の購入費を企業に負担してもらうかわりに、ブックカバーの表紙に企業名などステッカーを貼り、広告を掲載することで、経費削減と雑誌コーナーの充実を図る制度である。

その他の質問

導入しており、メリットとして経費の削減が図られているが、デメリットもあると聞いているので、現在検討をしている段階である。

・国保税の賦課方式の見直しを

教育部長

中央図書館は、週刊誌5誌で9万9千円、月刊誌61誌で45万3千円、その他17誌で12万5千円。佐織図書館は、月刊誌19誌で14万8千円、その他4誌で2万8千円の状況である。

県内では10市町が



愛西市中央図書館雑誌コーナー